

【第5章】
データからみえる清音村

データから見える清音村

みんなで話し合ってきたことに対して、現在の清音村がどうであるか、住民のみなさんはどのように考えているかを確認するためにアンケート調査を実施しました。このアンケートは、みんなが役割を持ちながら作成し、真鍋芳樹先生に分析をしていただきました。この分析結果は、誰もが見てわかりやすいようにまとめています。

清音村の人口の推移・将来推計と死亡状況

- ・ 清音村の国勢調査結果から、人口の推移と将来推計を行いました。
- ・ 清音村の死因別死亡状況ならびに、早世の状況を分析しました。

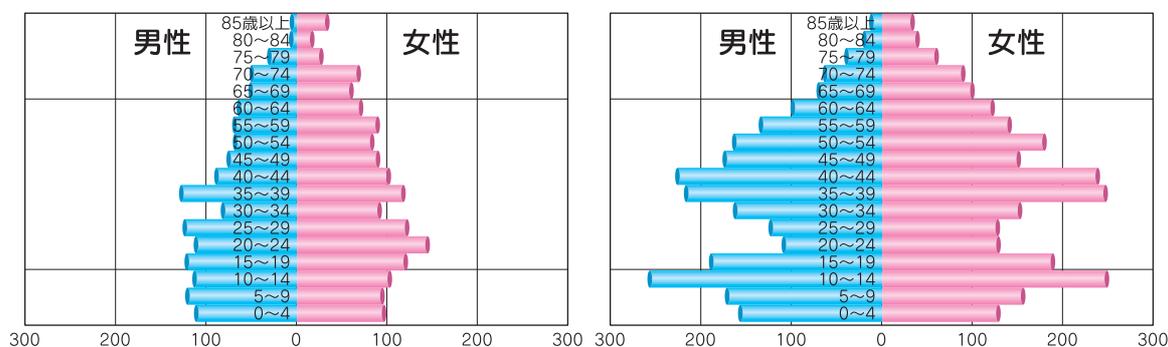
清音村の人口の推移・将来推計

清音村の人口がどのように推移するかを予測しました。

清音村の人口推移およびコホート要因法による人口推計

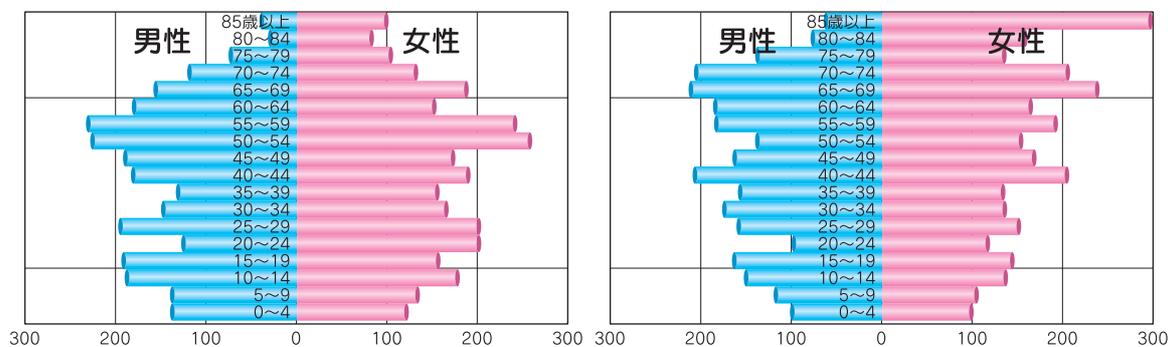
| 年 | 総人口 | 年齢区分別人口 | | | 年齢区分別割合 | | |
|-------|-------|---------|--------|-------|---------|--------|-------|
| | | 0～14歳 | 15～64歳 | 65歳以上 | 0～14歳 | 15～64歳 | 65歳以上 |
| | | 年少人口 | 生産年齢人口 | 老年人口 | 年少人口 | 生産年齢人口 | 老年人口 |
| 1970年 | 3,034 | 657 | 2,027 | 350 | 21.7% | 66.8% | 11.5% |
| 1975年 | 3,941 | 1,005 | 2,521 | 415 | 25.5% | 64.0% | 10.5% |
| 1980年 | 4,680 | 1,175 | 3,018 | 487 | 25.1% | 64.5% | 10.4% |
| 1985年 | 5,045 | 1,139 | 3,350 | 556 | 22.6% | 66.4% | 11.0% |
| 1990年 | 5,106 | 924 | 3,522 | 660 | 18.1% | 69.0% | 12.9% |
| 1995年 | 5,484 | 967 | 3,711 | 806 | 17.6% | 67.7% | 14.7% |
| 2000年 | 5,652 | 918 | 3,683 | 1,051 | 16.2% | 65.2% | 18.6% |
| 2005年 | 5,749 | 845 | 3,661 | 1,243 | 14.7% | 63.7% | 21.6% |
| 2010年 | 5,765 | 803 | 3,436 | 1,526 | 13.9% | 59.6% | 26.5% |
| 2015年 | 5,756 | 726 | 3,262 | 1,768 | 12.6% | 56.7% | 30.7% |
| 2020年 | 5,688 | 672 | 3,155 | 1,861 | 11.8% | 55.4% | 32.7% |

(2005年以降は推計値)



1970年の人口ピラミッド

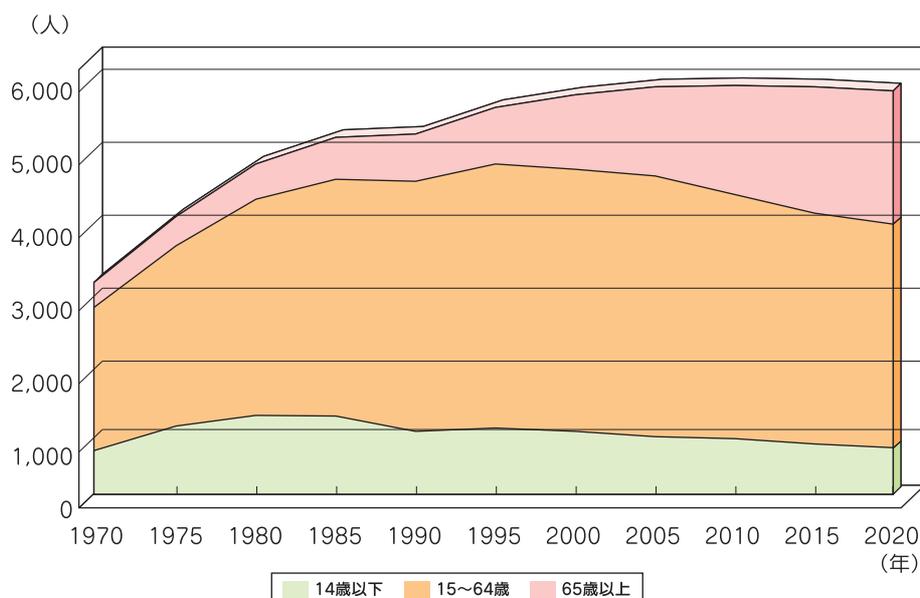
1985年の人口ピラミッド



2000年の人口ピラミッド

2015年の人口ピラミッド

清音村の人口ピラミッドの推移



清音村の年齢3区分別人口の推移

2000年（平成12年）の国勢調査の結果、清音村の人口総数は5,652人、14歳以下の年少人口（割合）は918人（16.2%）、15～64歳以下の生産年齢人口（割合）は3,683人（65.2%）、65歳以上の老年人口（割合）は1,051人（18.6%）でした。2015年（平成27年）には、人口総数は5,756人と推計され、現在よりも約100人程度の増加と推計できます。年少人口は726人で現在よりも約200人の減少、生産年齢人口は3,262人で約400人減少すると推計できます。一方、老年人口は約700人増加し、1,768人（約31%）に達するものと推計できます。

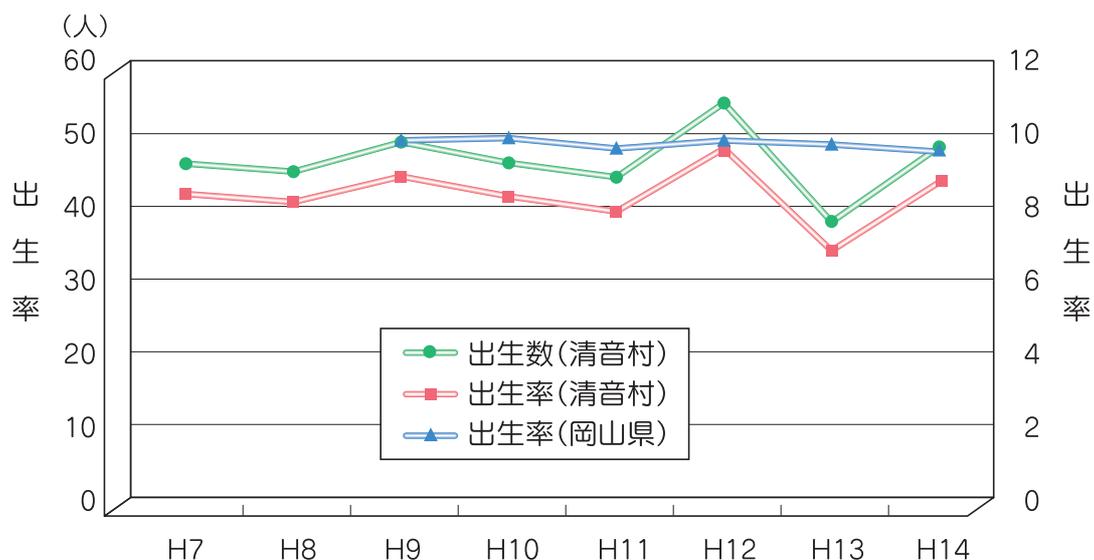
また、2000年の国勢調査結果によると、清音村は全国一低い昼夜間人口比率60.3%でした。昼夜間人口比率とは、夜間人口に対する昼間人口の割合のことで、この比率が100%を超えると昼間人口が多く、逆に100%より少ないと昼間人口が少ないこととなります。昼間人口とは、昼間清音村にいる人のことで、他の市町村から勤労などで清音村に来ている人も含まれます。夜間人口とは、夜間清音村にいる人のことです。清音村はこの昼夜間人口比率が低く、昼間は夜間人口の約6割に減少することが分かります。昼間村外に出る人としては、中学生をはじめ通学で村外に出る人や近隣の市町村へ通勤する人などが考えられます。

一方、昭和22年から24年のベビーブームに生まれた団塊の世代の人たちは、2007年～2010年、すなわち4～6年後には60歳（定年退職）を迎えることとなります（いわゆる2010年問題）。

清音村の出生数・率の推移

清音村では毎年どのくらいの赤ちゃんが生まれているのでしょうか。

| | 平成7年 | 平成8年 | 平成9年 | 平成10年 | 平成11年 | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 |
|-------------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 出生数 | 46 | 45 | 49 | 46 | 44 | 54 | 38 | 48 |
| 出生率 人口千対 | 8.4 | 8.2 | 8.9 | 8.3 | 7.9 | 9.6 | 6.8 | 8.6 |



毎年約45人程度の赤ちゃんが生まれています。

人口1,000人あたりの出生数である出生率は平成7年から14年までの平均で8.3でした。

岡山県の平成9年から14年までの平均出生率は9.7で、清音村は岡山県に比べて赤ちゃんが生まれる数が少なくなっています。

清音村の死亡の状況

清音村の死亡の状況をみてみましょう。清音村は人口が少ない村で、亡くなる人も少数ですので、平成7年から13年までの7年間の合計でみてみました。

全国及び清音村の死因別死亡者数・割合

| | 全国（平成13年） | | 清音村（平成7年から13年の合計） | | |
|-----|------------|-------|--|-----|-------|
| | 死因 | 割合(%) | 死因 | 人数 | 割合(%) |
| 1位 | 悪性新生物（がん） | 31.0 | 悪性新生物（がん） | 69 | 24.7 |
| 2位 | 心疾患 | 15.3 | 脳血管疾患（脳卒中） | 47 | 16.8 |
| 3位 | 脳血管疾患（脳卒中） | 13.6 | 心疾患 | 32 | 11.5 |
| 4位 | 肺炎 | 8.8 | 不慮の事故 | 20 | 7.2 |
| 5位 | 不慮の事故 | 4.1 | 肺炎 | 19 | 6.8 |
| 6位 | 自殺 | 3.0 | 「インフルエンザ、肺炎、急性気管支炎、慢性閉塞性肺疾患、喘息」を除いた呼吸器系の疾患 | 14 | 5.0 |
| 7位 | 老衰 | 2.3 | 老衰 | 10 | 3.6 |
| 8位 | 腎不全 | 1.8 | 自殺 | 8 | 2.9 |
| 9位 | 肝疾患 | 1.6 | 腎不全 | 7 | 2.5 |
| 10位 | 糖尿病 | 1.3 | 喘息 | 5 | 1.8 |
| | | | 肝疾患 | 5 | 1.8 |
| | | | 全死亡 | 279 | 100.0 |

清音村の性別・死因別死亡者数・割合

| | 男 性 | | | 女 性 | | |
|----|--|-----|-------|------------|-----|-------|
| | 死因 | 人数 | 割合(%) | 死因 | 人数 | 割合(%) |
| 1位 | 悪性新生物（がん） | 37 | 26.1 | 悪性新生物（がん） | 32 | 23.4 |
| 2位 | 脳血管疾患（脳卒中） | 20 | 14.1 | 脳血管疾患（脳卒中） | 27 | 19.7 |
| 3位 | 心疾患 | 15 | 10.6 | 心疾患 | 17 | 12.4 |
| 4位 | 不慮の事故 | 9 | 6.3 | 肺炎 | 12 | 8.8 |
| 5位 | 「インフルエンザ、肺炎、急性気管支炎、慢性閉塞性肺疾患、喘息」を除いた呼吸器系の疾患 | 8 | 5.6 | 不慮の事故 | 11 | 8.0 |
| | 全死亡 | 142 | 100.0 | 全死亡 | 137 | 100.0 |

（平成7年から13年の合計）

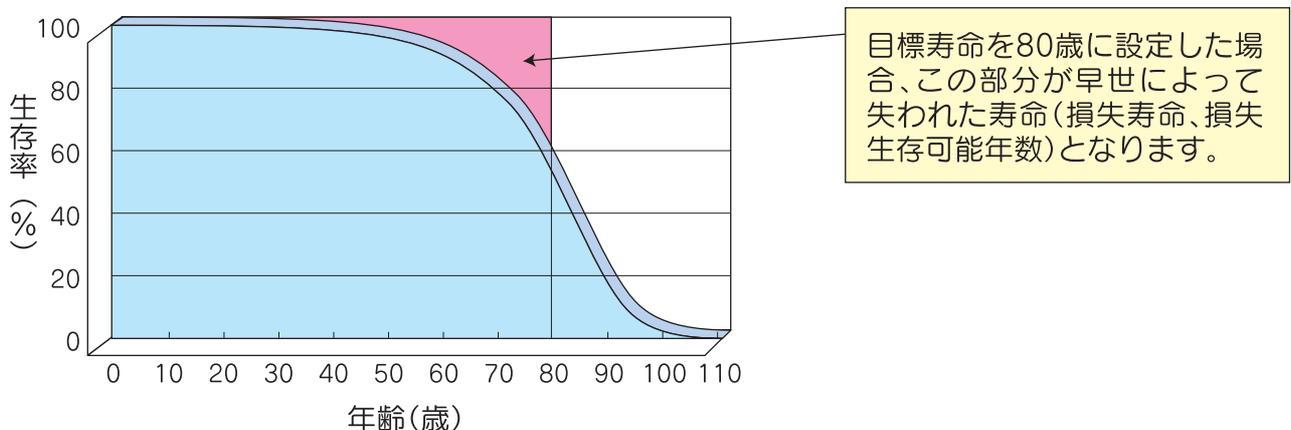
死因を全国と比較してみると、1位は全国も清音村も悪性新生物（がん）です。清音村では死亡者の24.7%が悪性新生物で亡くなっています。悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患（脳卒中）の3死因で全国では59.9%、清音村では53.0%の人が亡くなっています。

性別で見ると、男女ともに上位3死因は同じで、悪性新生物（がん）、脳血管疾患（脳卒中）、心疾患となっています。この3死因で男性の50.8%、女性の55.5%の人が亡くなっています。

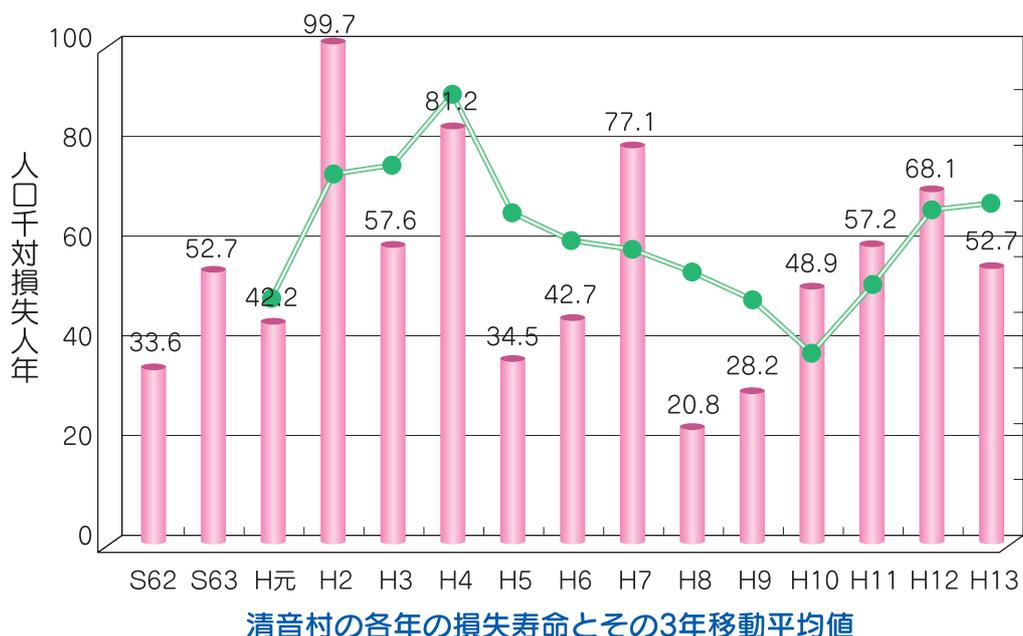
清音村の早世の状況

これまで見たように、何が原因で死亡しているかということは多くのことを私たちに教えてくれます。しかし、医療や科学が発達した現代でも、人の死を避けることはできません。そこで、死因だけに注目するのではなく、何が原因で早死しているかを探ることは地域の健康を考える上で非常に重要です。

この早世指標は、早死の状況を示す値です。早世指標にはいろいろな種類がありますが、ここでは一番分かりやすい方法で求めました。たとえば、ここまでは生きていようと目標にする寿命を80歳とした場合、60歳で死亡すれば80-60=20年の損失と考えます。80歳以上で死亡すれば目標寿命を達成したということで0年の損失とします。



ここでは昭和62年から平成13年までの早世状況をグラフにしました。棒グラフは各年の早世の状況を示します。折れ線グラフは、連続する3年間の平均値を表しています(3年移動平均)。



平成2年には新生児死亡ならびに10歳代、20歳代の死亡があり損失寿命が大きくなっています。また、平成4年と7年にも乳幼児死亡があり損失寿命が大きくなっています。一方、平成8年は死亡者の全員が50歳以上で低年齢での死亡が無かったため、損失寿命が最も低くなっています。

清音村は人口が約5,700人と少なく、新生児死亡など低年齢層の死亡が発生すると、大きく損失寿命の値が変化します。そこで、損失寿命の3年移動平均を求めました。3年移動平均というのは、例えば昭和62年、63年、平成元年の値の平均をとり、次は昭和63年、平成元年、2年の値の平均を取り…、というように順次1年ずつずらしながら3年間の値の平均をとるというものです。

昭和62年から平成4年までは損失寿命が増加していました。次いで、平成5年から10年までは減少傾向を示しましたが、11年からは再び増加傾向にあるようです。

清音村の早世の要因

どの死因がもっとも早世の原因となっているのでしょうか。平成7年から平成13年までの7年間の状況を見てみましょう。死因別死亡では悪性新生物（がん）で亡くなる人が多いことがわかりましたが、清音村の早世の死因は何でしょうか。

清音村の性別・死因別早世状況

| | 順位 | 死 因 | 損失人年 | 死亡人数 | 損失人年/ 死因別死亡数 | 損失人年/ 人口千対 |
|--------|----|----------|-------|------|-----------------|---------------|
| 全 体 | 1位 | 悪性新生物 | 661 | 69 | 9.6 | 17.0 |
| | 2位 | 不慮の事故 | 261 | 20 | 13.1 | 6.7 |
| | 3位 | 自殺 | 232 | 8 | 29.0 | 6.0 |
| | 4位 | 心疾患 | 214 | 32 | 6.7 | 5.5 |
| | 5位 | 脳血管疾患 | 172 | 47 | 3.7 | 4.4 |
| | | 総死亡 | 1,960 | 279 | 7.0 | 50.5 |
| 男 性 | 1位 | 悪性新生物 | 382 | 37 | 10.3 | 20.3 |
| | 2位 | 心疾患 | 173 | 15 | 11.5 | 9.2 |
| | 3位 | 不慮の事故 | 132 | 9 | 14.7 | 7.0 |
| | 4位 | 自殺 | 106 | 4 | 26.5 | 5.6 |
| | 5位 | 特異的な呼吸障害 | 80 | 1 | 80.0 | 4.2 |
| | | 総死亡 | 1,247 | 142 | 8.8 | 66.2 |
| 女 性 | 1位 | 悪性新生物 | 279 | 32 | 8.7 | 14.0 |
| | 2位 | 不慮の事故 | 129 | 11 | 11.7 | 6.5 |
| | 3位 | 自殺 | 126 | 4 | 31.5 | 6.3 |
| | 4位 | 脳血管疾患 | 94 | 27 | 3.5 | 4.7 |
| | 5位 | 心疾患 | 41 | 17 | 2.4 | 2.1 |
| | | 総死亡 | 713 | 137 | 5.2 | 35.7 |

（目標寿命を80歳に設定、平成7年から13年の合計）

人年とは人×年で表した単位で、1人の人が10年の寿命を失えば10人年となります。清音村で80歳に達せず死亡した人による失われた寿命（損失寿命）の合計は1,960人年でした。死因別に見ると、悪性新生物による損失寿命は661人年で最も多く、清音村の損失寿命の33.7%は悪性新生物によるものです。次いで、不慮の事故261人年、自殺232人年、心疾患214人年、脳血管疾患（脳卒中）172人年と続きます。清音村の損失寿命の78.6%がこの5つの死因で占められています。

男性の損失寿命の合計は1,247人年でした。死因別にみると、悪性新生物による損失寿命は382人年で最も多く、清音村の男性の損失寿命の30.6%は悪性新生物によるものです。次いで、心疾患173人年、不慮の事故132人年、自殺106人年、特異的な呼吸障害80人年と続きます。清音村の男性の損失寿命の70.0%がこの5つの死因で占められています。

女性の損失寿命の合計は713人年でした。死因別にみると、悪性新生物による損失寿命は279人年で最も多く、清音村の女性の損失寿命の39.1%は悪性新生物によるものです。次いで、不慮の事故129人年、自殺126人年、脳血管疾患94人年、心疾患41人年、と続きます。清音村の女性の損失寿命の93.8%がこの5つの死因で占められています。

このように清音村では男女ともに、悪性新生物での死亡者数が多く、さらに悪性新生物によって早世しています。また、不慮の事故（交通事故）も早世の大きな要因として、対策が望まれます。さらに、自殺による早世状況も明らかとなりました。

これらのことから、生活習慣や交通事故、心のケア等が重要であることがわかります。

では、清音村の死因、早世ともに最大の要因である悪性新生物の詳しい状況をみてみましょう。

清音村の平均余命・自立期間

全国、岡山県、清音村の平均余命の状況がどのようになっているのかをみてみましょう。平均余命とは、ある年齢に達したものが、平均余命を計算した年の死亡状況がその後もそのままであると仮定したときに、ある年齢以後生存されると期待される年数のことです。特別に0歳の平均余命を平均寿命といいます。

全国・岡山県・清音村の性別年齢階級別平均余命

| | 平成12年 | 平均余命 | | | |
|----|-------|------|------|------|-----|
| | | 0歳 | 65歳 | 75歳 | 85歳 |
| 男性 | 全国 | 77.7 | 17.5 | 10.8 | 5.7 |
| | 岡山県 | 77.8 | 17.7 | 10.9 | 5.7 |
| | 清音村 | 78.4 | 18.1 | 11.3 | 6.3 |
| 女性 | 全国 | 84.6 | 22.4 | 14.2 | 7.6 |
| | 岡山県 | 85.2 | 23.0 | 14.6 | 7.7 |
| | 清音村 | 85.7 | 23.4 | 15.0 | 8.0 |

(厚生労働省 全国市町村生命表)

清音村の性別年齢階級別の平均余命・自立期間・非自立期間

| 平成14年 | 65歳 | | | 75歳 | | | 85歳 | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|
| | 平均余命 | 自立期間 | 非自立期間 | 平均余命 | 自立期間 | 非自立期間 | 平均余命 | 自立期間 | 非自立期間 |
| 男性 | 18.33 | 16.62 | 1.71 | 11.35 | 9.37 | 1.98 | 6.45 | 3.94 | 2.51 |
| 女性 | 22.73 | 19.22 | 3.51 | 14.58 | 10.84 | 3.74 | 7.46 | 3.70 | 3.76 |

(公衆衛生ネットワーク 健康寿命計算ワークシートを用いて計算)

平成12年の男性の平均寿命は全国が77.7歳、岡山県が77.8歳、清音村は78.4歳でした。女性の平均寿命は全国が84.6歳、岡山県が85.2歳、清音村は85.7歳でした。このように、清音村は男女ともに全国や岡山県よりも長寿の村です。高齢者の平均余命も65歳男性が18.1年、女性が23.4年で、男女ともに全国や岡山県よりも長生きしています。

一方、清音村の人口、年齢別死亡者数、介護保険データを用い、公衆衛生ネットワークが提供している健康寿命計算ワークシートを用いて、平均余命、自立期間、非自立期間を求めました。65歳男性の平均余命は18.33年で、自立期間は16.62年であり、残りの1.71年は何らかの支援が必要になります。65歳女性の平均余命は22.73年で、自立期間は19.22年、支援が必要な期間は3.51年となっています。